P1-3-4 頚髄損傷患者に上肢装具を用いた訓練の効果

Effect of the exercise using the upper limb orthosis for a person with cervical spinal cord injury

[1]国立障害者リハビリテーションセンター　病院　リハビリテーション部、
[2]国立障害者リハビリテーションセンター　学院

○井上（いのうえ）　美紀（みき）[1]、徳井亜加根[2]、飛松　好子[1]、阿久根　徹[1]

慢性期の頚髄損傷患者1例に上肢装具を工夫して訓練を実施した結果、上肢機能に改善がみられたので報告する。症例は外傷性頚髄損傷C5機能レベルの30代男性。回復期病棟を経て、受傷後235日に訓練目的で入院。両側上肢とも肩、前腕のROM制限および肩関節以下の筋力低下のためADLは全介助であった。肩関節周囲筋を補助するためにポータブルスプリングバランサー（PSB）を用い、前腕回内制限の矯正と回内位保持を目的に手部付前腕回内外拘縮矯正用装具も製作して訓練を実施した。装具は使用目的や上肢機能に合わせて手部に万能カフの機能や手関節駆動式把持装具の機能を付加するなど変化させ訓練を実施した。結果、PSBは不要になり上肢機能とADLに改善が得られた。訓練目的に合わせて装具の手先部を変化させることで運動学習を容易にすることができたことに加え、段階的に目的を達成する経験により患者の意欲を向上させることができたためと考える。

Keyword：頚髄損傷（cervical spinal cord injury）、装具（orthosis）、リハビリテーション（rehabilitation）